



認知症の予防は

ヘルシーライフの実践にあり



平成30年

5/19 (土)

【受付】 13:30

【講演】 14:00~15:00

講演者：眞鍋雄太 先生

神奈川歯科大学附属病院 内科 診療科教授

日本認知症学会専門医・指導医

レビー小体型認知症研究会世話人・推奨医

日本旅行医学会認定医

会場：横浜研修センター 7F大会議室 (横浜市神奈川区鶴屋町3-31-6)

参加費：無料

申込：原則、事前申し込みをお願い致します。※電話番号は下記記載にて

問合せ：神奈川歯科大学附属横浜研修センター・横浜クリニック 地域医療連携室

電話・FAX 045-313-5047 (地域医療連携室直通)

ホームページ <http://www.hama.kdu.ac.jp>

認知症。いったいどんな病気なのでしょうか。

もし、『認知症という病気は存在しない』、『“物忘れ”のない認知症がある』と言われたら、ビックリしませんか。連日メディアに取り上げられ、予防や治療の特集が組まれている認知症。良く聞く言葉の割には、誤解され、正確に知られていない認知症。本講演では、認知症とは何ぞや、という問いから再確認して行きます。

そもそも認知症という単一の病気は存在しません。自分の置かれた環境を認識し、その環境下で求められる課題の解決に対し、課題を認識および理解し、記憶を呼び起こして解決手段を見つけ、解決策を推測し、相応の解決手段を用いて課題を達成する脳の機能を認知機能と言います。何らかの病気が原因となり認知機能が障害され、時間の経過と共に悪化し、社会生活に支障を来した『病態』、これを認知症と定義しています。従って、原因疾患ごとに症状は異なるわけで、物忘れのある認知症、ない認知症、様々な認知症が存在することになるわけです。ちなみに、認知症を数字で概念化すると、認知機能評価項目のMini Mental State Examinationが23点以下、長谷川式簡易知能評価で19点以下、臨床認知症評価尺度(CDR)で1点以上のレベルにまで認知機能が障害された病態となります。この概念に合致しなければ、認知症とは言えないのです。

本講演が認知症462万人時代を生き抜くヒントになるよう、認知症について一から再確認し、医学的根拠に基づいた予防、治療に関する最新の知見をお伝えする予定です。奮ってご参加下さい。